

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報19

2001・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告33

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報19

2001・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	塙 四郎
事務局	泉大津市教育委員会社会教育課	
調査担当者	泉大津市教育委員会社会教育課	虎間 麻実
外業調査員		辻川 陽一
内業調査員		松村まゆみ

4. 本事業は、平成12年度事業として、平成12年4月1日に着手して、平成13年3月31日に完了した。
5. 本書の執筆は虎間、松村が、編集は虎間が行った。

目 次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況.....	1
1. 泉大津市の位置と環境	1
2. 埋蔵文化財調査の現状	3
第2章 発掘調査成果.....	5
1. 池上曾根遺跡	5
2. 豊中遺跡、穴田遺跡	9
3. 池浦遺跡、虫取遺跡	12
発掘調査抄録.....	15

挿 表

表 I 発掘調査一覧表	4
-------------------	---

挿 図

図 1 泉大津市の位置	1
図 2 豊中遺跡遠望	1
図 3 遺跡分布図	2
図 4 遺跡別工事内容内訳	3
図 5 池上曾根遺跡 調査区位置図 (1:10,000)	5
図 6 2000-06地点トレンチ写真	6
図 7 2000-06地点断面写真	6
図 8 2000-06地点北壁断面図	6
図 9 2000-06地点出土遺物実測図	7
図10 2000-06地点出土遺物写真	7
図11 2001-01地点北壁断面図	7
図12 2001-01地点 1 トレンチ 1(左)・トレンチ 2(右)写真	8
図13 2001-01地点 1 トレンチ 1(左)・トレンチ 2(右)北壁断面写真	8
図14 豊中遺跡、穴田遺跡 調査区位置図 (1:10,000)	9

図15 2000-03地点トレンチ写真	10
図16 2000-03地点北壁断面写真	10
図17 2000-03地点北壁断面図	10
図18 2000-02地点トレンチ写真	11
図19 2000-02地点西壁断面図	11
図20 2000-02地点西壁断面写真	11
図21 池浦遺跡、虫取遺跡 調査区位置図（1：10,000）	12
図22 2000-04地点トレンチ写真	13
図23 2000-04地点北壁断面写真	13
図24 2000-04地点北壁断面図	13
図25 2000-04地点出土遺物実測図	14
図26 2000-04地点出土遺物写真	14
図27 2000-05地点西壁（左）・東壁（右）断面写真	14
図28 2000-05地点西壁断面図	14

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部のいわゆる泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源とし、幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開拓谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

泉大津市は面積12.30 km²、人口76,833人である（平成13年2月1日現在）。昭和40年代頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。

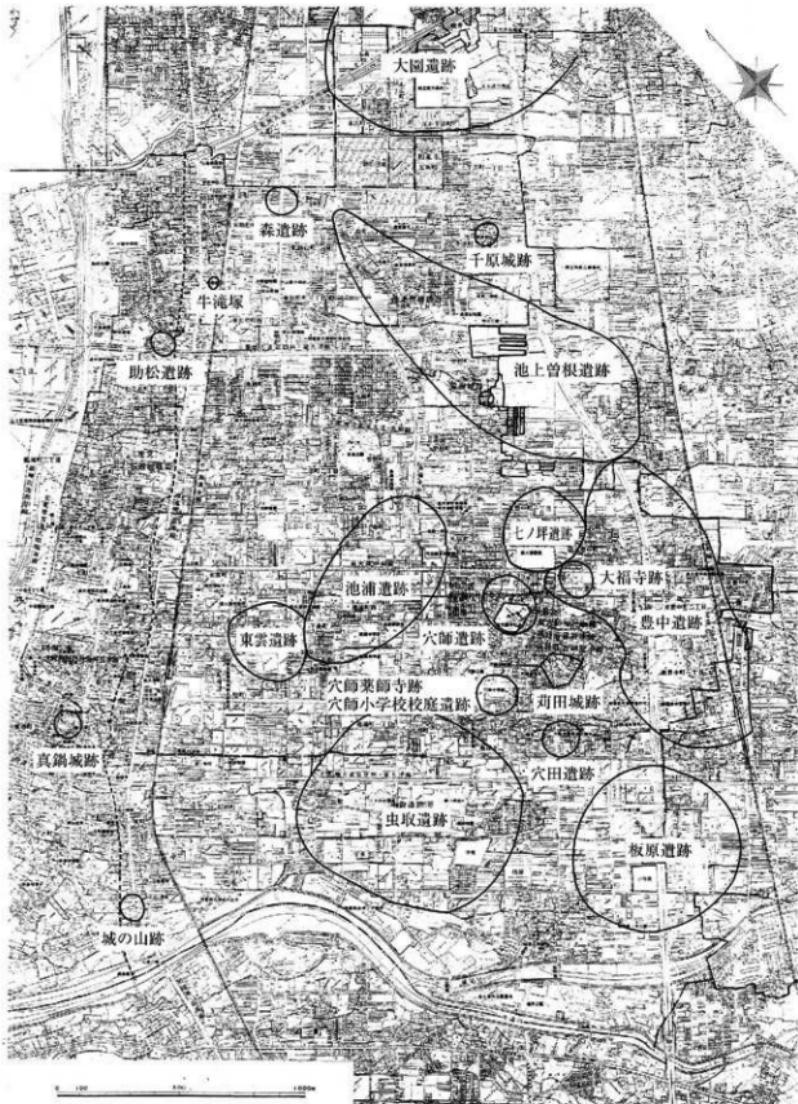
近年の開発における市域の環境は、臨海部及び南海本線沿線で大きな変化が認められる。臨海部では、新たな住居地域としてのマンション建設が進み、松之浜駅周辺では、鉄道高架事業により駅ビルの建設が行われている。これ以外の開発は、平成5年頃のバブル景気を境に、大規模開発は下火になっているが、織維工場解体後の分譲住宅建設、木造個人住宅の鉄筋造への立替えなど、景観への影響は大きいものがあろう。



第1図 泉大津市の位置



第2図 豊中遺跡遠望



第3図 遺跡分布図

2. 埋蔵文化財調査の現状

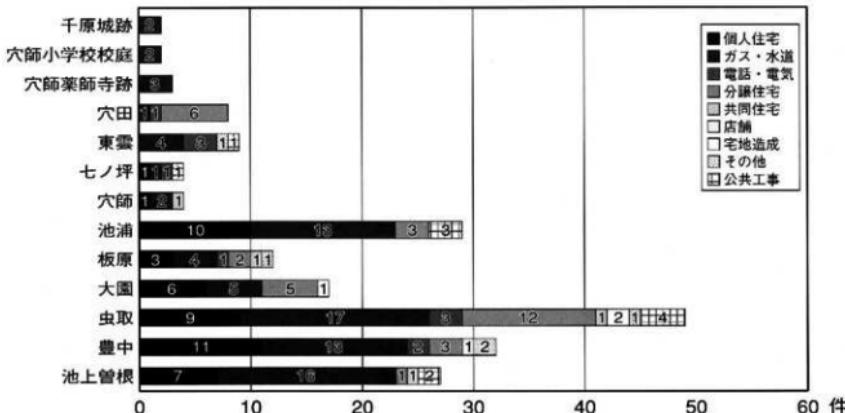
本概報は、平成12年2、3月及び平成12年4月～13年1月までに届け出があったものを対象とする。対象期間内の埋蔵文化財届出件数は198件である。近年の届出件数は、平成10年度234件、平成11年度250件と概ね一定していたが、今年度は大幅な減少がみられた。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数を見ると虫取遺跡、豊中遺跡、池浦遺跡、池上曾根遺跡の順である。

総届出件数に占める工事内容は、ガス・水道・電話・電気を含む個人住宅関連工事が71%と最も多い。続いて、分譲住宅が16%、以下、公共下水道敷設、その他の工事、共同住宅、の順でそれぞれ数パーセントづつを占める。「その他」工事は、倉庫、工場の建設工事である。

近年の工事種別内訳の傾向として、分譲住宅の比率が多くなることがあげられる。数パーセントを占める宅地造成も分譲住宅建設に先立って行われるのがほとんどである。

本概報で報告する調査は、池上曾根遺跡2件、豊中遺跡1件、穴田遺跡1件、池浦遺跡1件、虫取遺跡1件の合計6件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊すると思われるため、着工前の確認調査を行ったものである。但し、本発掘調査に至った件はない。



第4図 遺跡別工事内容内訳

表1 発掘調査一覧表

○池上曾根遺跡

調査番号	所 在 地	用 途	申請面積
2000-06	森町2丁目228-7	鉄筋造2階建 個人住宅	65.00m ²
2001-01	森町2丁目194-3, 199-2, 201-1	鉄筋造3階建 共同住宅	1,327.21m ²

○豊中遺跡

調査番号	所 在 地	用 途	申請面積
2000-03	北豊中町2丁目366-27	木造2階建 個人住宅	221.70m ²

○穴田遺跡

調査番号	所 在 地	用 途	申請面積
2000-02	我孫子70-1, 71-1, 71-2 各一部	木造2階建 分譲住宅	1325.67m ²

○池浦遺跡

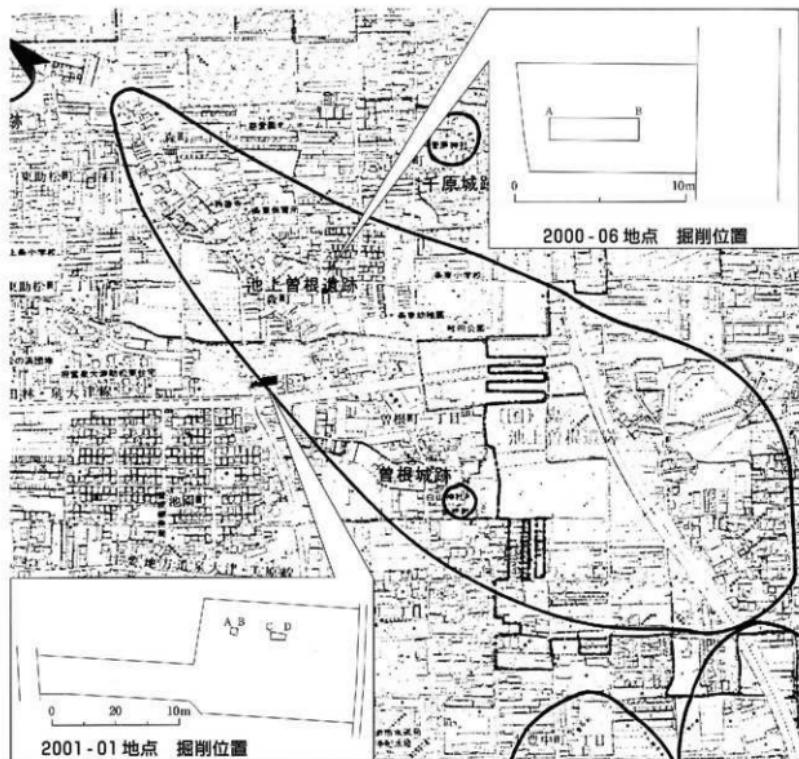
調査番号	所 在 地	用 途	申請面積
2000-04	池浦町4丁目178-3	鉄骨造2階建 個人住宅	165.27m ²

○虫取遺跡

調査番号	所 在 地	用 途	申請面積
2000-05	池浦町2丁目573-7	鉄筋造3階建 個人住宅	70.35m ²

第2章 発掘調査成果

1. 池上曾根遺跡



第5図 池上曾根遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

池上曾根遺跡は、本市曾根町と和泉市池上町に広がり、昭和51年に約11.5ヘクタールが史跡に指定された。本市の史跡範囲は、曾根神社及び、府道松之浜曾根線沿線で約2.3ヘクタールで、史跡の大部分は和泉市域である。指定地を含む遺跡範囲は約105ヘクタールで南北に広がりをもつ。指定地外の遺跡範囲は曾根神社以西及び森町、千原町の一部である。指定地外の地域は、古くからの村落と昭和40年代の開発部分が混在しているが、小区画の開発が多いため大規模な調査は行われていない。そのため、史跡指定地中心部の構造に比べ、縁辺部は不明な点が多い。

今年度は遺跡内で、個人住宅と共同住宅の建設に先立ち、2件の調査を実施した。確認調査に終わり、面的な調査には至らなかった。

2000-06 地点

当該地は遺跡の北部に位置し府道松之浜曾根線より200m北に位置する。周辺は、昭和40年代に開発された住宅地とそれ以前の古い村落が混在する地域である。また、当該地付近は、古墳時代以降に形成されたとされる自然堤防上に位置する。その地形は、現在の地形図からも伺い知ることができる。

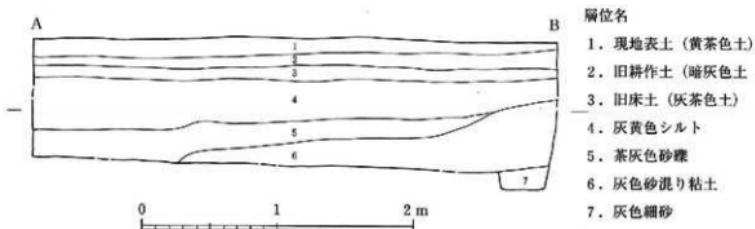
鉄筋3階建て個人住宅の建設が予定されたため、着工に先立って調査を実施した。まず、敷地の



第6図 2000-06地点トレンチ写真



第7図 2000-06地点断面写真



第8図 2000-06地点北壁断面図

中央に、幅1.2m、長さ3mの規模のトレンチを設定し、重機で深さ1mまで掘削を行った。トレンチの層序は現地表土（黄茶色土）、旧耕作土（暗灰色土）、旧床土（灰茶色土）、灰黄色シルト、茶灰色砂礫、灰色砂混じり粘土、灰色細砂の順で堆積が認められる。灰黄色シルト、茶灰色砂礫、灰色砂混じり粘土は遺物包含層である。灰黄色シルトはわずかに土師器片、炭片などを含む。茶灰色砂礫は須恵器、土師器、白磁などを多く含む中世の包含層である。灰色砂混じり粘土は土師器をわずかに含む。灰色細砂からは湧水が激しい。

出土土器は小破片のみであるが、須恵器が最も多く、46点を数える。第9図-1は復元口径8.2

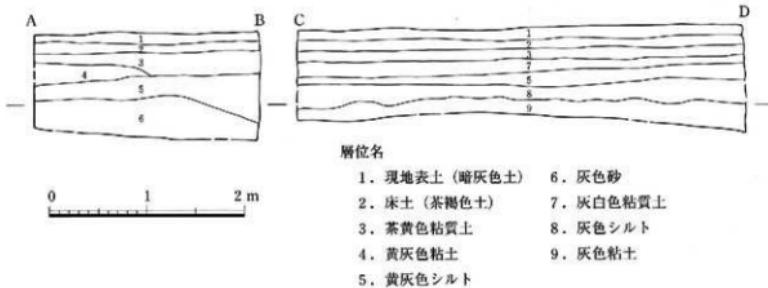
cmを測る平瓶口縁と推測される。2は、復元口径10.8cmの蓋杯の坏部で口縁端部に内傾する段を有する。3は壺類体部で波状紋、列点紋を巡らせる。4は無蓋高杯で4復元口径19cmを測る。波状紋を施す。須恵器はこれらの他、蓋坏片7点、甕や*の小片も出土している。須恵器以外には、弥生土器3点、土師器細片16点が認められる。また、中国製の白磁碗の小片が1点出土している。

遺物の出土により全面調査を行う方向で検討したが、敷地が狭く、土置き場を考えると、今回の調査が最大限である。遺構は認められないが、旧耕土下で中世の包含層が認められたことは、当該地が立地する自然堤防の形成時期を考察する上で、興味深い。

写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

2001-01地点

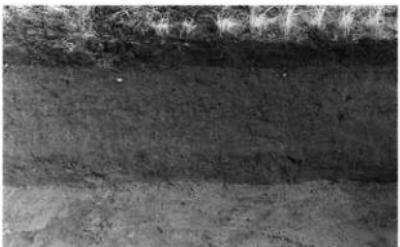
当該地は遺跡の西端に位置し、府道松ノ浜曾根線の北側に隣接する地点である。近年、耕作地から共同住宅への立て替えが目立つ地域である。当該地も水田であったが、鉄骨造3階建共同住宅の建設に先立って、調査を実施した。



第11図 2001-01地点北壁断面図



第12図 2001-01地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)写真



第13図 2001-01地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)北壁断面写真

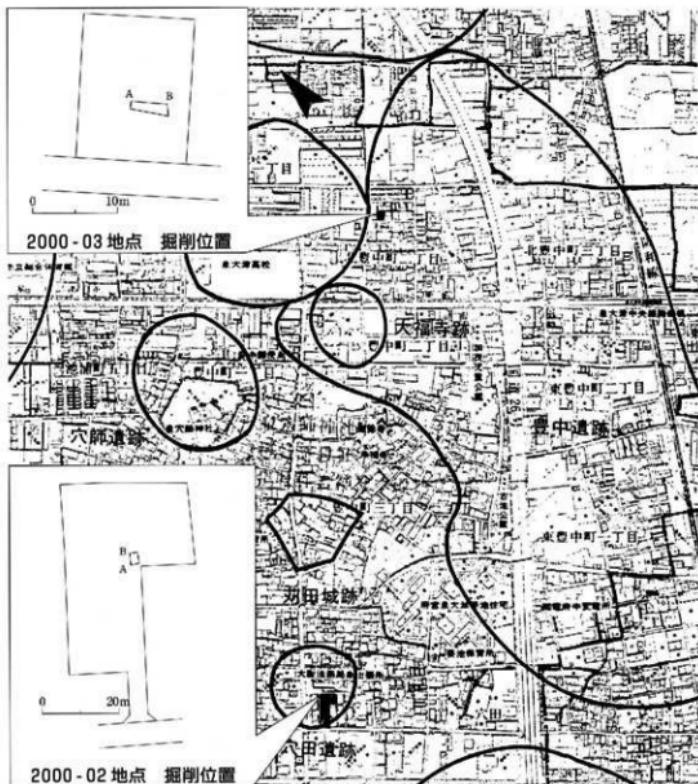
敷地の東部分に2カ所のトレンチを設定する。まず、幅1.2m、長さ2.2mのトレンチをトレンチ1とし、深さ1mまで重機にて掘削する。続いて、ここより10m東に、幅、1.2m、長さ4.5mのトレンチを深さ0.8mまで重機で掘削し、トレンチ2とする。

トレンチ1の層序は上層から現耕作土(暗灰色土)、床土(茶褐色土)、茶黄色粘質土、黄灰色粘度、黄灰色シルト、灰色砂の順で堆積する。湧水が非常に激しい。トレンチ2は上層から、3層まではトレンチ1と同様の堆積であるが、以下、灰白色粘質土、黄灰色シルト、灰色シルト、灰色粘質土の順でほぼ水平の堆積である。出土遺物は、トレンチ1から須恵器片及び土師器片が、トレンチ2から弥生土器片、須恵器片、土師器片、平瓦片が出土しているが、いずれも小破片で図示し得ない。遺構は認められない。断面実測、写真撮影を行い調査を終了した。

2. 豊中遺跡、穴田遺跡

豊中遺跡は国道26号線を長軸に、市の東端に広がる遺跡で、面積は約490ヘクタールである。現在までに、本市で最も継続して調査が行われている遺跡で、その成果から、国道付近は古墳時代の、泉大津中央線付近は平安～中世にかけての集落が見つかっている。また、中世の遺構として、南北方向に流れる水脈上に井戸が数多く見られるのも当遺跡の特徴である。今年度は遺跡内で個人住宅の立て替えに先立ち1件の調査を実施した。

穴田遺跡は豊中遺跡の西側に位置し、遺跡の直径は約200mとその範囲は狭い。昭和30年代の調査により羽釜を積み上げた井戸を検出しているが、詳細は不明であり、遺跡の性格解明には至っていない。今年度は分譲住宅の建設に先立って確認調査を実施した。



第14図 豊中遺跡、穴田遺跡 調査区位置図 (1:10,000)

2000-03 地点

当該地は豊中遺跡の北端にあたり国道26号線より直線で約200mの距離に位置する。昭和40年代に開発された住宅街の一画で、今回は個人住宅の建て替えに先立ち調査を実施した。

敷地のほぼ中央に幅1.5m、長さ4.5mのトレンチを設定し、重機で1.3mの深さまで掘削を行う。トレンチの層序は上層から盛土、旧耕作土（灰黒色土）、灰白色土、茶褐色土、暗灰白色土、黄褐色粘土、灰白色シルトに至る。3層の灰白色土は近世以前の耕作土で、5層はわずかであるが、土師器の細片が認められる。

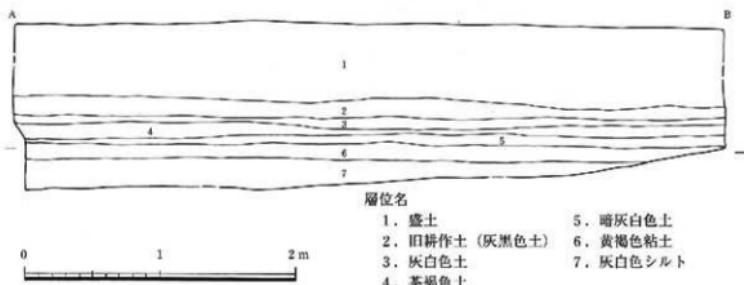
遺構は認められない。断面実測及び写真撮影を行い調査を終了した。



第15図 2000-03 地点トレンチ写真



第16図 2000-03 地点北壁断面写真



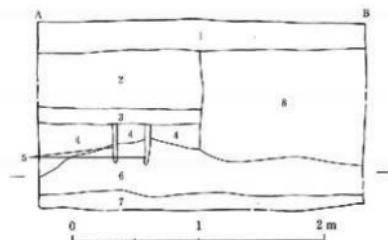
第17図 2000-03 地点北壁断面図

2000-02地点

当該地は遺跡の南端に位置する。従前は織物工場であったが取り壊し、分譲住宅が予定されたため、建設に先立ち調査を実施した。

敷地の中央やや東寄りに幅1m、長さ3mの規模のトレンチを設定し、重機で深さ1.5mまで掘削を行う。

トレンチの層序は上層から盛土、旧盛土、旧耕土、青灰色シルト、青黄色粘土、黄灰色砂礫に至る。青灰色シルトは近世以降の耕作上で杭跡が認められる。また、トレンチ北部分は盛土直下から擾乱が認められる。擾乱はコンクリート片、ブロック片、レンガ片などからなり、今回の建設に伴う整地による織物工場の基礎倒壊部であろう。遺構、遺物は認められない。断面図実測及び写真撮影を御行い調査を終了した。



層位名

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 盛土 | 5. 灰青色粘土(杭跡) |
| 2. 旧盛土(灰黒色土) | 6. 青黄色粘土 |
| 3. 旧耕土 | 7. 黄灰色砂礫 |
| 4. 青灰色シルト | 8. 摆乱 |

第19図 2000-02地点西壁断面図



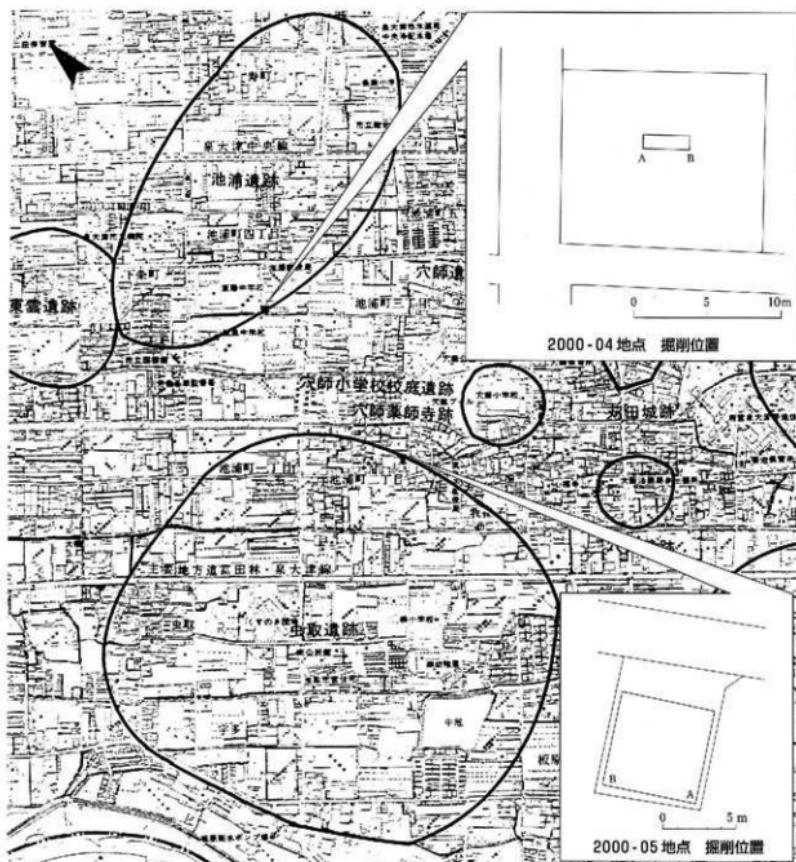
第18図 2000-02地点トレンチ写真



第20図 2000-02地点西壁断面写真

3. 池浦遺跡、虫取遺跡

池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地方で最も古い集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、市立病院付近がその中心と推測される。当遺跡内での調査は、昭和47年に開始され、以降、昭和50年代から60年代初頭にかけて比較的大きな規模で行われてきた。しかし、遺跡中心部はミニ開発が主で大規模開発があまり見られないことや、開発の中心が遺跡の年北東側に移ったことなどで、近年の調査は確認調査にとどまっている。平成9年度の調査で、朝鮮系無文土器の可能性をも



第21図 池浦遺跡、虫取遺跡 調査区位置図（1:10,000）

つ破片を検出している。池上曾根遺跡との関わりを考える上で重要な意味をもつ遺跡であると考えられる。今年度は1件の調査を実施した。

虫取遺跡は、池上曾根遺跡に次ぐ面積を有する遺跡である。耕作地が多く残るが、近年は、共同住宅、店舗などの開発が増加している地域である。しかし、顕著な遺構は認められない場合が多い。

2000-04地点

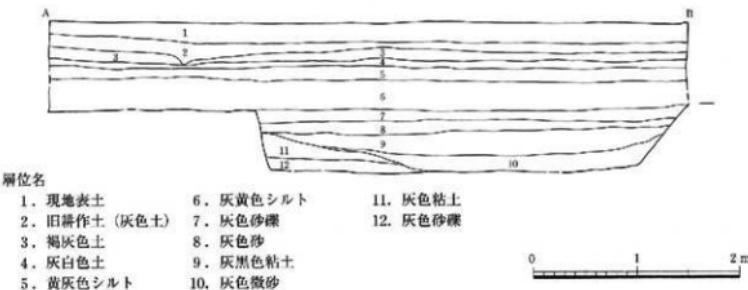
遺跡の南端に位置する。市立東陽中学校と誠風中学校の東に隣接する。鉄骨造2階建て個人住宅の建設に先立ち調査を実施した。敷地中央に、幅1m、長さ3.2mの規模のトレンチを設定し、深さ1.5mまで重機にて掘削を行う。トレンチの層序は上層から現地表土、旧耕土、褐灰色土、灰白色土、黄灰色シルト、灰黄色シルト、灰色砂礫、灰色砂、灰黑色粘土、灰色微砂に至る。3層は土師器片、瓦器片を含む中世の包含層で、4層、5層は須恵器、弥生土器を含む3層以前の包含層である。7層以降は砂及び礫が多く認められる。遺構は認められない。断面実測、写真撮影を行い調査を終了した。



第22図 2000-04地点トレンチ写真



第23図 2000-04地点南壁断面写真



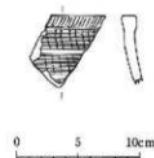
第24図 2000-04地点南壁断面図

2000-05地点

遺跡の北東端に位置する。市立穴師小学校と直線で約250mの距離である。当該地で鉄骨造3階建て個人住宅の建設が予定されたため、建設に先立ち調査を実施した。敷地のほぼ全域に1辺約6.5mのトレンチを設定し、深さ0.8mまで重機で掘削を行う。

トレンチの層序は上層から盛土（黄灰色土）、旧盛土（灰色土）、黄灰色砂礫、及び灰色砂礫で、3層の黄灰色砂礫と5層の灰色砂礫を切って、ピット状の遺構が認められる。以下、茶灰色土、茶色砂に至る。ピット状の堆積を示す4層には、瓦器、土師器、弥生土器が含まれる。3層の黄灰色砂礫はにぎりこぶし大の円礫を多数含み、その堆積は東側の断面にも認められる。

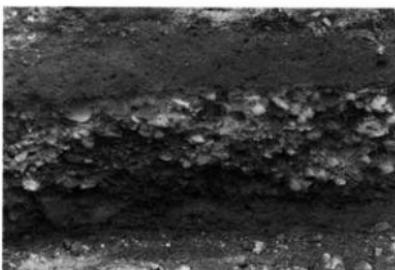
第25図は弥生土器鉢の小片である。褐黄色の色調を呈し、口縁部外面に列点紋、体部に幅広の櫛描簾状紋が3帯認められる。写真撮影及び断面図を作製し、調査を終了した。



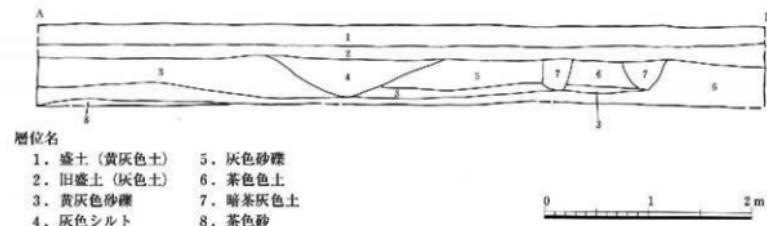
第25図 2000-05地点出土遺物実測図



第26図 2000-05地点出土遺物写真



第27図 2000-05地点西壁（左）・東壁（右）断面写真



第28図 2000-05地点西壁断面図

発掘調査抄録 その1

ふりがな	いざるおおつしまいきうちぶんかざいほんくわちようきがいほ
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
周書名	
番次	19
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	33
編著者名	虎賀 麻実
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒593-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2001年3月26日

ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド 市町村 遺跡番号	北 緯 度	東 緯 度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
池上曾根	大阪府泉大津市 東雲町2丁目 228-7	272060	34度 30分 20秒	135度 25分 40秒	20000831	65.00	鉄骨3階層建個人住宅建設に伴う事前調査
	東雲町2丁目 194-3, 199-2, 201-1		34度 30分 15秒	135度 25分 30秒	20010117	1,327.21	鉄骨造3階層共同住宅建設に伴う事前調査
豊中	大阪府泉大津市 北笠中町2丁目 366-26	272060	34度 29分 45秒	135度 25分 40秒	20000323	221.70	木造2階層個人住宅に伴う事前調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
池上曾根	集落	弥生	遺構は検出されなかった	土器 生活器 骨器 瓦	破片 破片 破片 破片
		古墳		土器 生活器 骨器 瓦	破片 破片 破片 破片
豊中	集落	奈良	遺構は検出されなかった	土器 生活器 骨器 瓦	破片 破片 破片 破片
		平安			
	集落	飛鳥	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		古墳			
	中世	平安	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		中世			

発掘調査抄録 その2

ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東經 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
穴 田	大阪府泉大津市 我孫子70-1,71-1、 71-2 各一部	272060		34度 29分 15秒	135度 25分 10秒	20000301	1325.67	木造2階建分譲 住宅建設に伴う 事前調査
池 潟	大阪府泉大津市 池瀬町4丁目 178-3	272060		34度 29分 45秒	135度 25分 00秒	20000512	165.27	鉄骨造2階建個人 住宅建設に伴う事 前調査
虫 取	大阪府泉大津市 池瀬町2丁目 573-7	272060		34度 29分 30秒	135度 25分 00秒	20000721	70.35	鉄筋造3階建個人 住宅建設に伴う事 前調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
穴 田	集 落	古 墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
		中 古			
池 潟	集 落	弥 生	遺構は検出されなかった 遺物は検出されなかった	弥生土器 破片 須恵器 丸	
		古 墳			
虫 取	集 落	弥 生	断面にピット状の遺構を確認	弥生土器 破片	
		中 古			

泉大津市文化財調査報告33

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報19

2001年3月

発行 泉大津市教育委員会
編集 社会教育課
泉大津市東雲町9番12号

印刷 和泉市池上町460番地の33
和泉出版印刷株式会社

